

研究成果の紹介

スプレーカーネーションの花芽分化及び開花時期

スプレーカーネーション「チェリーテッシノ」について、定植時期を変え花芽分化及び開花時期を調査した。淡路地域の慣行である6月中旬定植では、花芽分化は摘心6週後、開花は11週後に始まった。定植日が遅いほど花芽分化及び開花にかかる期間は長くなった。

内容

淡路地域のスプレーカーネーションは、6月中旬に定植し10月から出荷する作型が一般的である。定植時期が遅いと開花が遅れることはよく知られているが、花芽分化の時期にどのように影響するかは明らかでない。カーネーションは相対的長日植物^{*}で、開花促進のため電照(長日処理)を利用する場合、花芽分化時期が分かれば電照期間を決めるのに活用できる。そこで、ピンク系の主要品種である「チェリーテッシノ」(中生)を供試し、定植時期を変え花芽分化及び開花時期を調査した。

2022年6月6日から7月18日まで2週ごとに定植し、それぞれ定植3週後に摘心、7週後に1株4本に整枝した。摘心後1週ごとに1株で最も長い茎の上位2節目の芽を実体顕微鏡で観察した。発達段階は、未分化、膨大期、がく片形成期、花弁形成期及び雌雄ずい形成期以降の5段階に分けて判断し、膨大期以降を花芽分化とした(写真)。

その結果、初めて花芽分化が確認できたのは摘心43~78日(6~11週)後で、定植日が遅いほど摘心から花芽分化開始までの期間は長くなった(表、図)。開花開始は花芽分化開始の29~64日(4~9週)後で、定植日が遅いほど花芽分化から開花までの期間は長くなった。慣行の6月20日定植の場合、開花最盛期は10月中旬~11月下旬であったことから、花芽分化最盛期は開花の約5週前の9月中旬~10月下旬であると考えられた(データ略)。以上のことから、日長が短くなるほど花芽分化までの期間が長くなるとともに、花芽分化から開花までの期間も長くなることが明らかになった。

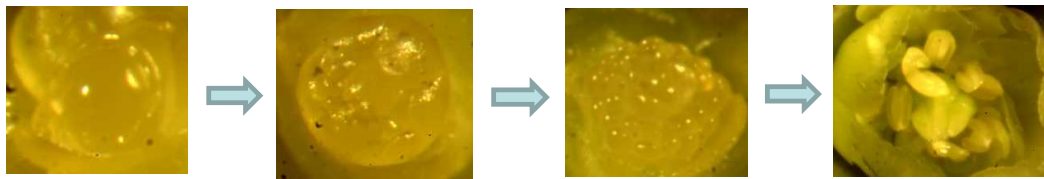


写真 スプレーカーネーションの花芽の発育段階

表 スプレーカーネーションの定植日が花芽分化開始日及び開花開始日に及ぼす影響

定植日 (月/日)	摘心日 (月/日)	花芽分化開始日 (月/日)	摘心~花芽分化開始までの日数	開花開始日 (月/日)	花芽分化開始~開花開始までの日数
6/6	6/27	8/9	43	9/7	29
6/20	7/11	8/23	43	9/26	34
7/4	7/25	9/20	57	10/24	34
7/18	8/8	10/25	78	12/28	64

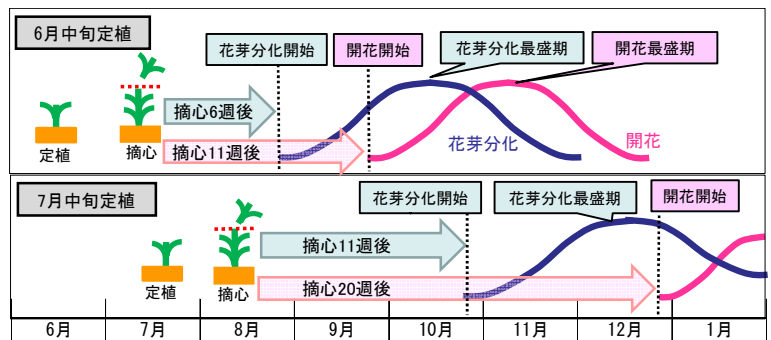


図 スプレーカーネーションの花芽分化及び開花時期の模式図

今後の方針

定植時期から栄養成長期と生殖成長期を判断できることから、電照期間の決定に活用する。

^{*}相対的長日植物：短日でも長日でも開花するが、長日の方が早く開花する植物

水谷 祐一郎 (淡路 農業部)